

## 第12回 市長とジェンダーミーティング開催報告

日 時：令和8年1月29日（木）14：00～16：00

会 場：市役所9階会議室

参加者：市長、協働・男女平等参画室長、企業・市民団体等31名、事務局4名

### ≪第1部≫

#### ●市長挨拶

ご紹介いただきました、苫小牧市長の金澤俊です。皆様、この猛吹雪の中、苫小牧市役所までお越しいただき、誠にありがとうございます。また、今日お話しいただく佐藤真美さん、小嶋美代子さんにも心より感謝申し上げます。

ジェンダーミーティングは回を重ねるごとに、参加者の皆様が苫小牧におけるジェンダーギャップ解消に向けて様々な議論を進めております。苫小牧は経済都市として長らく発展してきましたが、特に子供の出生数が10年前と比較しほぼ半減している現状を考慮すると、町の発展を図るためには外国人の方々をより受け入れやすい環境を構築する必要があります。このような状況にあたり、ジェンダーの理解を深め、誰もが働きやすく住みやすい環境を整えていかなければなりません。

先週、私は台湾に出張し、半導体関連の企業とお会いする機会がありました。ラピダスを含む半導体企業の誘致に向け、府県庁とも様々な話をしました。その際、女性経営者の割合が非常に高いことに驚きました。関係団体や半導体関連企業の社長が多く登壇し、実際に利用しやすい環境が整えられていることを実感しました。これから苫小牧が発展するには、ジェンダーギャップの解消に向けた取り組みが不可欠だと強く感じております。

皆さんもご承知の通り、佐藤アナウンサーは Team NACS の皆さんと共に、様々な経験を重ねながら笑顔でテレビに登場されています。今日のテーマに沿った、女性にとっての仕事や生活でのモチベーション向上に繋がるヒントをいただけることを期待しています。また、小嶋さんからは、エンパワーメントに関する貴重なお話を伺えるものと信じております。限られた時間ではありますが、皆様にとって、有意義な時間となりますよう心よりお祈り申し上げます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

#### ●ワークライフバランス講演会「苫小牧の未来はもっとワクワクできる～女性の視点がひらく可能性～」

佐藤さん：ダボス会議は、男女平等に関するデータを分析しており、日本は148カ国中118位と低位に位置しています。指標は政治、経済、教育、健康ですが、日本は教育と健康では良好な結果を出していますが、政治と経済で大きなギャップがあります。最近の調査によると、北海道が長年最下位を維持しており、その現状を見直す必要があります。

小嶋さん： 苫小牧市は、女性管理職比率や男性公務員の育休取得率が高いことが特徴です。特に女性採用比率が 50%で、男女平等の環境が整っていますが、役職においてはまだギャップがあります。数字を追求するだけでなく、何が課題なのかを分析することが重要です。男女平等の状況は苫小牧市は北海道の平均よりも良好ですが、今後の改善が必要です。

佐藤さん： 参加者からの質問として、15 年前と比較して女性の働き方が改善されたかという点が挙げられました。今は育休や産休が取りやすく、働き方も柔軟になっています。特に男性の育休取得率は過去と比較して高くなっています。地域によっては、育休取得率が高いことが顕著で、こうした数字は苫小牧市の未来にも影響を与えるでしょう。

小嶋さん： 女性の社会参加が進むことで、家庭内の役割も変わり、平等な育児が浸透します。また、職場で女性が増えることで新たな視点が生まれ、職場環境が進化する可能性があります。女性の視点が加わることで、システムや習慣が改善される例も多く見られます。

佐藤さん： 苫小牧の企業で何社か集まって企業指導のプロジェクトを作る動きはありますか？田淵さんにお聞きしたいと思います。

田淵さん： 私の知る限りでは、そういった動きはありません。私の会社の場合、グループ会社を参考にしたり、このような場に参加することで新たな気づきを得ることはあります。

小嶋さん： 何かチャンスが必要なのかもしれませんね。きっかけや場を提供するタイミングが大切です。今日もおそらく、そういった組織を変えるためのつながりが生まれていると思います。民間企業は特に、そこで経済効果を生み出すことができるはずです。

佐藤さん： まさにその通りです。まずは一步を踏み出すことが、より大きな変化につながるんですね。

櫻田さん： 私の会社では、ジェンダーミーティングで学んだことをもとに、職場の文化を見直しました。意見交換をしやすくするために、カジュアルなミーティングを増やしたところ、非常に良い反応が得られました。

小嶋さん： 素晴らしいですね！そのようにして、皆で協力して変化を取り入れられる環境ができると、良い影響を与えるはずです。

小嶋さん： 皆さんの発言を通じて、互いに学び合うことの大切さがよくわかりました。この

ようなネットワークがあれば、さらに多くのアイデアが生まれるはずです。

佐藤さん: 皆さん、お疲れ様でした。活発な意見が交わされており、皆さんがこれからの進展に向けて前向きに取り組んでいる姿に感銘を受けました。是非、今日の経験を SNS で発信し、多くの人々とつながるきっかけを作っていただければと思います。私の写真を撮りたい方がいれば、ぜひお声掛けください。

小嶋さん: 本日はありがとうございました。皆さんの熱意を感じることができ、それを別の場所でも伝えたいと思います。持参した数字は考えるきっかけとして重要ですが、皆さんがそのデータを理解し、さまざまな視点から処理してくださったことにとっても嬉しく思っています。このようなミーティングを通じて、新しい考えやつながりが生まれることは非常に意義深いです。市民同士のつながりがますます求められる中で、私も皆さんと共に考えていく仲間であり続けたいと思っています。

## 《第2部》

### ●グループディスカッション

#### ●各グループからの発表、市長の講評

##### Dグループの発表と市長の講評

平田さん: ありがとうございます。私たちのグループでは、自分のことは自分でできるようになるように子育てをしたい、それを周囲にも広めたいという実践的な目標を掲げました。また、自分の仕事の経験や取得した資格を苦小牧に還元したい人もいて、例えば防災士の資格を持っている方がいます。さらに、男性の参加者の方は、家事にも取り組むことでパートナーを支えていこうと考えています。町内会で女性町内会長を登用するための努力もしていきたいと思っています。

副議長: 貴重な学びを得ることができました。このような場に参加するのは初めてですが、パートナーシップをしっかり支えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

市長: 「自分のことは自分でできるように子育てをする」との目標は非常に重要で、夫婦間や教育の面でも重要性を持っています。それぞれの子供を尊重することにもつながるでしょう。また、家事のサポートを性別にかかわらず行い、互いに支え合うことが大切です。町内会における女性の積極登用についても注目すべき点です。現在、女性の町内会長は少ないですが、各町内会での取り組みを促進し、前向きな変化を期待しています。これからもこの取り組みを進めていきましょう。

#### A グループの発表と市長の講評

遠藤さん:私たちは、ワークライフバランスを大切に、男性も女性も人間として幸福に生きる環境を整えることが重要だと考えています。保育園では男性保育士が少数派になっているため、男性を守る立場も重要です。働く環境として、短時間勤務や多様な働き方を受け入れることも話し合いました。また、子育てだけでなく、介護などの問題も皆が直面するため、それに対する支援が重要だと認識しています。最終的には、楽しんで働ける環境を作ることが大切だと感じています。

市長: ありがとうございます。小嶋さんと同様に、ライフとキャリアの密接性には非常に共感しています。仕事に費やす時間や労力は大きいため、その時間をどれだけ楽しめるかが重要です。職場環境を整え、家庭間での信頼関係を築くことが大切です。新しいアイデアを試していくことで、ジェンダーギャップの解消に向けた取り組みが進むことを期待しています。ありがとうございました。

#### C グループの発表と市長の講評

高橋さん:今回のテーマについて女性の能力を高く評価することは重要ですが、実際には組織全体で女性の進出を支援しないと難しいと感じています。すべての役割を100%完璧にこなせるわけではないため、周囲のサポートが必要です。また、男女に限らず、さまざまなバックグラウンドの人を尊重し認め合うことが重要です。このように、職場環境を大切にしつつ、各人の事情を理解することが求められます。

市長: ありがとうございます。高橋さんのおっしゃる通り、個々の能力や事情を尊重し、支え合う環境作りは非常に大切です。一人ひとりが認め合うことで、より良い職場環境が生まれ、結果的に地域全体の成長にも繋がります。引き続き、皆さんの意見をもとに取り組んでいきたいと思います。佐藤さんからコメントをお願いします。

佐藤さん:職場における「認め合う」環境を広げるためには、信頼関係を築くことが重要です。そのためには、圧倒的にコミュニケーションを取ることが大切だと思います。ハラスメントの捉え方の違いも、相手との信頼関係によるものですから、自ら積極的にコミュニケーションを育成していくことが社会にとって必要だと考えています。アナウンサーとしての技術をお伝えすると、コミュニケーションが苦手な人には質問時に語尾を上げることで印象が変わります。この簡単なテクニックは、周囲の人にも教える価値があります。また、コミュニケーションが不得意な人は、そうではない部下や後輩に対して、「佐藤麻美が言っていた」と話すことで、相手が気づききっかけになるかもしれません。このスキルをぜひ活用してください。

市長:信頼関係を築く上でコミュニケーションが不可欠だという点には、特に私も共感しています。また、コミュニケーションが苦手な人への配慮も重要です。例えば、語尾を上げるだけで会話の印象が変わるというテクニックは、部下や後輩に教える価値があります。このようなスキルを活用すれば、周囲の人たちもコミュニケーションに対する自信を持てるようになるかもしれません。

#### B グループの発表と市長の講評

佐久間さん: B グループでは、自然体でいることが周囲に良い影響を与えると意見が出ました。ある企業の支店長が、自分が自然体でいることが職場環境を良くするとの見解を述べました。また、町内会では女性の役員比率が低いという問題があり、これをどう増やすかが重要であるとの指摘がありました。さらに、リアルでのつながりが、SNS などによる情報の偏りを克服できると再認識したとのこと。そして、多様な視点から物事を見ていくことが、個人の経験と知見が積み重なることで多様性につながると考えました。

市長: 自然体でいることが大切ですが、それを維持するためには日頃からのコミュニケーションが必要です。他人を理解し、信頼関係を築くことで、自然体でいることが可能になると考えています。小嶋さんからコメントをお願いします。

小嶋さん: 自然体は個人にとって良いことですが、組織としては自然に女性を増やすのを待つだけでは遅れが生じる現状があります。組織は時にはアクセルを踏んで変革を進める必要があります。苫小牧市ではそのような取り組みが行われており、今後は更に進んでいくことが重要だと感じています。